

4. 議題

今回の番組審議委員会は、令和6年1月1日（月）午後4時10分ごろに発生した能登半島地震による緊急地震速報後における緊急特別番組（宮ノ下浩一ナビゲーター）の放送と、1月5日（金）午後3時03分～約15分間 能登半島地震の電話リポート（ヒッツ・スマイル・ウィークデー 井谷 麻希ナビゲーター）を聴取して審議に入った。

☆年始特別プログラム：緊急地震速報による緊急放送

番組内容：当日は年始特別プログラムの為、宮ノ下が制作・ナビゲーターとして担当。

しかし、午後4時10分ごろ石川県能登半島で大きな地震が発生し、高山市内も緊急地震速報が立ち上がり大きな揺れを観測、緊急放送に切り替えた。地震発生当初は、被害などの情報が入らなかったため、気象庁などのホームページを参考に、高山市（特に奥飛騨温泉郷・上宝地域など、揺れの大きかったところ）の震度を中心に放送した。リスナーには落ち着いて行動するようよう呼びかけた。道路や鉄道、断水などの情報は入り次第だったので、切り替え直後は高山の震度を中心に。同日午後8時まで高山市の震度状況や被害状況などの情報を放送した。

☆特別番組：令和6年能登半島地震によるリポート

番組内容：石川県のコミュニティFM「ラジオななお」などに出演するフリーアナウンサー 車吉章（くるま・よしあき）さんに現在の被災地の様子や、石川県のコミュニティFM各局の対応などについて電話インタビュー。地震発生時の車さんの行動や「ラジオななお」の現状などリポートをして頂いた。

5. 審議内容

会社側：	審議に入る前に、前回の番組審議委員会での意見に対しての回答、報告今後の放送予定、聴取した番組の説明をした。
委員長：	皆様からいろいろなご意見を頂戴したいが、今、聴取した番組に関して、また、普段聴いている番組で感じたことなどをお願いしたい。
A 委員：	「緊急地震速報による緊急放送」について、この時、自宅も地震の影響ですごく揺れて、一旦、外に逃げて揺れが収まったあと、テレビやヒッツFMを聴いて情報収集していた。たまたまこの日の担当は、ベテランの宮ノ下ナビゲーターだったこともあり、冷静に対応していたと思う。ただ、聴取したあとの会社側の報告でもあったが、自身も聴いていて地震の震度などの情報が遅れていたのか、しゃべりに「間」があり、情報がはっきりわからないまま石川県の震度情報、津波情報、後から入ってきた高山市の震度情報を中心に繰り返し伝えていた。揺れが大きいし、震度の情報がはっきりわからなければ、まず、身を守る為の行動や避難

	<p>について伝えたほうがよかったと思う。地震が発生した日は元日で、時間が夕方だったので家でのおんびり過ごしていた方や、市内で買い物している方が多いと思うので「家のタンスが倒れるから気をつけて」とか、「上から物が落ちてくるので離れて下さい」など、最初に繰り返し呼びかけて、その後、震度の情報が入り次第、伝えたほうが良かったのではないかと思う。</p> <p>お聞きするが、アナウンス用の緊急災害マニュアルはあるのか？</p>
会社側：	<p>スタジオ内に置いてある。そのマニュアルに沿って「車を左に寄せて下さい」などと呼びかけた。</p>
A 委員：	<p>マニュアルがあることは承知したが、そのような情報を最初に繰り返し呼びかけて欲しかったと思う。また、余震がおきる可能性があるため、そのようなことも繰り返し呼びかけて欲しいと思った。</p> <p>「能登半島地震によるレポート」については、現地で被災された方の情報だったので、より身近に感じた。自分たちの地域が、万が一、地震で被災したらどうなるのか想像しながら聴くことができたし、今後、自分たちはどのように行動したらよいのか、考えさせられる内容だった。また落ち着いた時、情報として定期的に番組内で取り上げて欲しいと思う。</p>
委員長：	<p>緊急事態なので冷静に対応することは難しいと思うし、しゃべりとしゃべりとの「間」が空くことも仕方がないと思う。このような状況の中で情報を伝えているベテランの宮ノ下ナビゲーターは、流石だと思った。</p>
B 委員：	<p>聴取した内容は緊急事態なので、緊急事態の中、マニュアルにないことも落ち着いて伝えていたと思う。テレビでは、石川県の津波情報など慌ただしく放送していたが、ラジオでは、高山市は少し大きく揺れたが、それほど被害もなく、宮ノ下ナビゲーターはあおることもなく、冷静に伝えていたと思う。冷静に対応することは大変だし、情報を伝えてくれた宮ノ下ナビゲーターには感謝している。</p> <p>「能登半島地震によるレポート」については、現地のパーソナリティの車さんと冷静で明快な情報発信を伝えていたと思う。</p>
C 委員：	<p>「緊急地震速報による緊急放送」について、A委員、B委員同様、高山市は地震の影響による大きな被害がなく、また地元向けの緊急放送だったので、NHKテレビのようなことは無く、宮ノ下ナビゲーターは適切で冷静に情報を伝えていたと思う。</p> <p>「能登半島地震によるレポート」でよかったことは、車さんからのメッ</p>

	<p>セージで「災害車両の通行を優先するため、今は能登に來ないで下さい。」と呼びかけをした後「こちらから何か支援することはないか。」と問いかけたことはよかったと思う。聞きたいのだが、リポート時のBGMは、ヒッツFM側で放送していたものか？また、車さんの番組内で音楽が流れたのか？</p>
会社側：	<p>BGMはヒッツFMから流したものだ。車さんの番組にはBGMを含む音楽は届いていない。</p>
C 委員：	<p>車さんとしては、こうゆう時だからこそ、音楽を流して癒してもらったり、少しでも元気になってもらったりと話していたが、このような内容にヒッツFM側の番組の都合でBGMを入れることは、どうなのかと思った。車さん側は音楽が欲しいと言っていたが、こちら側としてはBGMが要らないような気がした。気持ち的な部分と内容をしっかり聴きたい為、できればBGMは無い状態で放送して欲しかった。</p>
委員長：	<p>自身も聴いていて同様の意見だ。車さんとのリポートは、話が聴きたい為、BGMは無いほうがよいと思った。車さんの番組で流す音楽と意味合いが違うと感じた。</p>
D 委員：	<p>「緊急地震速報による緊急放送」については、宮ノ下ナビゲーターがとても落ち着いて情報を伝えたり、呼びかけていたので「流石プロだな」と思った。「しゃべりとしゃべり間が気になった。」と会社側の指摘があったが、緊急事態なので繋ぎながら放送することは難しいと思うので、自身は気にならなかった。「順次、情報が入り次第お伝えします。」と放送で呼びかけていたので、ラジオを切らずに耳を傾けていたかたも多かったと思う。</p> <p>「能登半島地震によるリポート」については、地震発生から4日ほどしか経っておらず、現地の様子がまだわからない状況で、現地の生の声が聴けたことは、とてもありがたいと思った。大変な状況で「音楽を聴きたい」という声があるということは、芸能人がよく被災地にいてボランティア活動などして、被災者を楽しませたり、勇気づけたりしているし、この時はラジオを通じて「必要なものは何か。」とか呼びかけることができるし、それに対して「募金をお願いしたい。」などとやりとりができるし、改めて「ラジオが果たす役割」を感じた。</p>
E 委員：	<p>自身の出身は石川県で、車さんの話の中で買い物途中、地震に遭った場所は、たぶん白山市内のショッピングセンターだと思う。自身もこの日、帰省していて2時間ほど前にこの場所にいた。家族で買い物をした後、</p>

自宅に帰り、近所の神社にお参りに行って帰ってきた時、地震に遭ったこのあたりは震度5強で結構揺れた。近所では灯籠が倒れたりしたが、自宅は特に被害はなかった。高山と石川は比較的近い距離で、高山市もかなり揺れたみたいなので、少し危機感をもって情報を伝えたほうがよいのか、落ち着いて伝えたほうがよいのか、このあたりは賛否両論があると思う。しかし石川県にいて思ったことは、大津波警報が発令されたので「高台に逃げて下さい。」など繰り返し放送していた。しかし、自身の自宅付近には高台は無いし、とにかくうるさく感じてしまった。また、救急車は走りっぱなしだし、夜11時ごろには緊急地震速報がまた流れて「逃げて下さい。」などと、あおるような言い方だったような気がするし、とにかく不安で仕方がなかった。このような状況を思い出すと、宮ノ下ナビゲーターは落ち着いて伝えていてよかったと思う。賛否両論あると思うが、そんなに慌ただしく伝えるよりは、落ち着いて伝えたほうがよいと思った。だだ、先ほどの原委員の意見と同様で「車を止めて下さい」や「机の下に入って下さい」「落ち着いて行動して下さい」などは大事なので、繰り返し伝えたほうがよいと思った。

「能登半島地震によるリポート」については、松川委員同様、現地の人はこちら側に伝えたいこととして「災害車両の通行を優先するため、今は能登に来ないで下さい。」と呼びかけたことや「募金をお願いしたい。」など、重要部分を伝えていたのでよかったと思う。以前、広域緊急援助隊（芹川委員は警察職員）として、東日本大震災時や熊本地震時に応援に行った経験があるし、現地で活動時に大きな地震（余震）に遭うこともあったが、今回、地元石川県に帰省中、地震に遭ってしまい自身も含め県民は不安で仕方がなかった。夜も眠れないし、明日の食事があるのかとか、近所で火事が起こっているのかなど、本当に不安な毎日を送っていたと思う。そう思うと、車さんが音楽を流して欲しい気持ちがわかる気がする。ゆっくりとした音楽を聴きながら「トイレはこちらにあります。」とか「食事はこちらでとれますよ。」などの放送を、ゆっくりとしたテンポで伝えてもらえれば、非常にありがたいと思った。警察の立場として、いずれ南海トラフ地震などの地震により、岐阜県も被害に遭う可能性があるので、そうゆう時こそラジオの役割が大事で、不安をあおるのではなく、市民を安心させる内容を放送して欲しいと思う。

委員 長： 実際に地震に遭ったかたの、生の声を聴けてよかったと思う。

F 委員： 国道の道路を管理している高山国道事務所の立場として（坂下委員は国道交通省 中部地方整備局 高山国道工事事務所職員）、1月1日の能登半島地震時、自身はこの日、高山には居なかったのだが、高山も大きく揺れたので、急遽職員が集まり、道路に亀裂や陥没などないか対応してい

	<p>た。「緊急地震速報による緊急放送」について、このような時は慌てがちになってしまうのだが、宮ノ下ナビゲーターは慌てることなく、ゆっくり丁寧に伝えていたのでよかったと思った。</p> <p>「能登半島地震によるレポート」については、現在、復旧作業が進んでいるのだが、高山国道事務所職員も調査に派遣された。調査員の話によると、電話が繋がらないし、停電している場所も多く、情報がわからない状況が続いている。そういう時こそラジオは、停電していても車や電池を入れて聴くことができ情報収集ができるので、そのあたりはラジオの強みだと思う。先ほどの意見にもあったが、避難が必要な場合やトイレのことなど、このような情報をラジオで伝えてもらえると、非常によいのかなと思う。尚且つ、今回、現地の生の情報を伝えてもらうことができよかったと思った。</p>
委員 長:	緊急放送に切り替えたということは、自動で割り込んで放送されたのか？
会 社 側:	自動で割り込んでいない。通常放送していた状態から緊急放送に切り替えただけだ。
委員 長:	<p>承知した。ところで今回の車さんとのやりとりで「コミュニティFMの役割」というのが、凄くわかりやすく出たと思う。ただ、高山市は隣の飛騨市も含めエリアが広いと思う。今後、ヒッツFMとしてどのような対応をしていくのか。難しいことだと思うが、情報をどのように収集するのが一番よいのか、今後の課題として考えて欲しいと思う。特派員ではないが、地域ごとに連絡がとれて、情報を報告できるかたがれば、一番よいのかなと思う。検討して頂きたい。また「ラジオななお」の被害報告で、足の踏み場がないくらい物が散乱したという話だったが、ヒッツFMの場合、放送しているスタジオの周りに物が少なく、スムーズに入っていけるから大丈夫だと思う。しかし、CDが入っている棚は別の部屋にあり、棚もストッパーなどで補強してあると思うが、それでも大きな地震が発生すれば、棚の上に置いてあるCDは飛び出るかもしれないから、できるだけ散乱しないような工夫が必要なのかなと思う。冷静に放送する為にも、避けられることは避けて廊下も通れる為、倒れる物は置かずにしてもらおうとか、今後、考えて欲しいと思う。</p>
A 委 員:	今回は、たまたまベテランの宮ノ下ナビゲーターが対応していたが、今後、また同じような大きな地震がおきた場合、他のナビゲーター、特に経験の浅いナビゲーターは、冷静に対応ができるように今後、指導して欲しいと思う。

C 委員:	<p>普段の番組について、今年の1月4日か5日の夕方の番組だと思うが、正月ということもあり、この日あたりから仕事が始まる企業も多いと思うので「今日から仕事が始まります」みたいな流れでラジオでも紹介があったと思う。しかし、夕方、自宅に帰る途中に聴いていると、担当ナビゲーターが「今日から仕事始めが始まりました。」と言っていた。「今日から仕事始めです」とか「今日から仕事が始まりました」とかならわかるが、正直びっくりした。また、今回の聴取した内容にも「拝見させて頂く」と言っていたが「拝見」と「させて頂く」は二重敬語となるので「拝見しました」とかになると思う。自身は毎年、高校のビジネスマナーにいて講師を務めている。なので、言葉遣いなどを間違えないよう、事前に勉強したり資料を作成している。そうゆうこともあり余計、気になってしまう。ナビゲーターは原稿通りに読んでしまったのか、とっさに言ってしまったのかわからないが、そのあたりは指摘をしたほうがよいと思う。</p>
会社側:	<p>承知した。指摘や指導をしていく。</p>
委員長:	<p>丁寧に言うと重複することがある。指摘して欲しいと思う。他に意見はないか？</p>
A 委員:	<p>先回の番組審議委員会の時、渡邊ナビゲーターのニュース読みに対し「間」が空いて聴きづらいという指摘をしたが、最近は「間」が空くこともなくスラスラと読んでいて、結構聴きやすくなった。しっかり修正できてよかったと思う。</p>
委員長:	<p>渡邊ナビゲーター本人に伝えて欲しいと思う。</p>
会社側:	<p>先回の番組審議委員会の指摘は、制作担当者にすぐ報告した。渡邊ナビゲーターについては、指摘に対して真剣に取り組んだと思う。</p>
委員長:	<p>他に意見がなければ閉会する。</p>
会社側:	<p>本日も貴重な意見を頂戴して感謝している。会社に持ち帰り改善できるところは改善し、番組向上に繋げて行きたい考えだ。</p>

6. 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日（答申又は意見の内容及びその年月日を併せて記載すること。）

令和6年1月30日（火）番組審議委員会の席上で説明

7. 審議機関の答申又は意見の概要の公表

公表の方法（自社ホームページ <http://www.hidanet.ne.jp/~hitsfm>）

公表の内容 第93回番組審議委員会開催の議事録

公表年月日 令和6年2月21日

8. その他の参考事項

次回開催時期：令和6年3月下旬

次回開催場所：飛騨地域地場産業振興センター